

第 58 回福島問題研究会議事録 (ダイジェスト)

2021.9.5 伊達記

1. 開催日時 2021/8/3 14:00～16:30
2. 出席者 (敬称略) : 小林、横堀、中尾、橋本、戸井田、松井、牛尾、山下、伊達郷、戸井田、松田、(欠席)
3. 議題 :
 - (1) 第 57 回研究会議事録の確認
 - (2) 入手情報紹介・情報交換 : 前回以降の関連会合情報等
 - (3) 討議事項 : 中長期リスク低減目標マップ関連の議論
 - (4) その他

(1) 第 55 回議事録、第 57 回題議事録確認

・第 55 回議事録の 2 月の東北地震(最大震度 6 強)による 1 F の 1 号機、3 号機の水位低下について一部修正。

・第 57 回議事録一部修正して承認。

(2) 入手情報紹介・情報交換 : 前回以降の関連会合情報等の紹介

○6/5 (土) ~7/3 (土) SCE・Net 主催公開講座 (原子力・放射線の基礎) 開催

○7/10 (土) 第 128 回オンライン特別技術懇談会 (SCE・Net) 「トリチウムの分離」
元旭化成) 山田氏 (SCE・Net)

・感想 : ALPS 処理水からトリチウムを除去できても、残された ALPS 処理水を海洋放出する際の風評被害の問題は解決されずに残されるのでは。解決すべき問題は、ALPS 処理水からトリチウムを除去することよりも、原発関係者、なかでも廃炉当事者の信頼を回復することが先決ではないか。信頼性回復がないままでは、たとえトリチウムを除去しても ALPS 処理水の海洋放出は受け入れられず、逆に言えば、信頼されていれば、トリチウムを含んだままの放出も許容されるのではないか。

○7/13 (金) 第 32 回 「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」

・本会合に化学工学会を代表して長谷部先生がオブザーバーとして参加。

(長谷部先生の入手資料を送付いただき BropBox に収納)

○7/25 (日) 第 8 回ふくしま学 (楽) 会

主催 : 早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・早稲田大学レジリエンス研究所

共催 : 福島県広野町 後援 : 福島イノベーション・コースト構想推進機構、双葉地方町村会

(内容)

① 1F 廃炉の先と地域社会:廃炉事業を地域社会から考える (パネル討議)

松岡俊二 (早稲田大学アジア太平洋研究センタ(WIAPS) 早稲田大学環境総合研究センタ、リサーチセンター長、1F 廃炉の先研究会代表)

菅波香織（未来会議事務局長、弁護士、1F 廃炉の先研究会）

吉田 学（HAMADOORI13 代表）

奥田修司（エネ庁・原子力発電所事故収束対応室・前室長）

溝上伸也（廃炉推進カンパニー・燃料デブリ取り出しプログラム部・部長）

木元崇宏（廃炉推進カンパニー・リスクコミュニケーター）

井上 正（電中研、原子力学会）

・廃炉事業の見（魅）える化（顔のみえる責任主体の明確化）：End State が示せないなら、せめて中間状態（事業年数の明確な）を示すべき。

・廃炉の中の社会ではなく、社会の中の廃炉という視点で考える（村上春樹の「壁と卵」）

・ふくしま学（楽）会では、「福島再生なくして日本の再生なし」という福島復興の原点を再確認して世代、地域、分野を超えて福島復興について議論するとしている。

② 当日の他の討議

・「創造的復興と災害文化の継承：福島で取り組むべき復興のかたち」、「福島の教訓を考える：福島から学ぶものは何か」

⇒現地を中心とした現場に近い研究会であり、当研究会も見習うところがあるはず。

○今後の関連会合の予定

・8/20（金）原子力学会遮蔽設計手法

・9/7（火） ANFURD（福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会）

・9/8（水）～9/10（金）日本原子力学会秋の大会

(3) 討議事項：中長期リスク低減目標マップ関連の議論

1) 第57回研究会後の元NDF) 沼田氏を交えた情報交換会のおさらいと意見交換

・ROSRAO のトリチウム分離技術は、前回、原理的に問題なく実証実験まで実施済み。

今回の公募では ROSRAO は何を行うのか？

・前回の公募、今回の公募（サインシグマ：一次評価→TEPCO：二次評価）、その他のプロジェクトを含めて、プロジェクトの進め方、実験計画等に問題あるのでは？

・トリチウム分離技術に関して、蒸留塔の充填剤の検討はありうる。

・滞留水を抜く、HIC の処理等、水を抜いたときの核種の飛散対策、気中の低濃度核種の分析法の調査が必要。

・汚染水海洋放出に関する風評被害対策は、科学的根拠とともに、総合的に、社会科学的観点から行うべき。

・汚染水の海洋放出以外に大気放出という手段もあるが、影響が広範囲に及ぶという問題がある。（中国、韓国への対応）

・トリチウム除去を行ったとしても、他の核種は残っている。汚染水については、核種の除去を行ったとしても、やはり、「汚れた水に触れた水は、汚れた水」という認識を持たれるという意見もあり。

2) 当研究会内だけの議論では限界があるので、外部の方を呼んで意見交換を使用という提案があり、その方向で進めることとなった。

(4) その他

1) 次回研究会 ・9/16 (木) 14:00~16:30